

「エネルギー・環境に関する選択枝」に対する意見書

名称	持続可能な地域交通を考える会		
住所	〒211-0004 川崎市中原区新丸子東 3-1100-12 かわさき市民活動センター ブース5		
電話番号	050-3638-3464	電子メールアドレス	query@sltc.jp
意見	<ol style="list-style-type: none"> 1. 即時「原発ゼロシナリオ」を選び、実効的な政策の策定を開始すること。 2. 運輸部門の省エネでは、「電気自動車」などの自動車依存を前提とした政策ではなく、自動車への依存度を減らし、徒歩、自転車や公共交通手段の利用へと転換させる省エネ策へと改めること。 		
意見の理由	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東日本大震災の前まで国民に事実上「安全」を保証してきた東京電力福島原子力発電所が世界最悪規模の大事故を起こし、被災地を始めとする全ての国民生活を混乱に陥れた。これにより従来のエネルギー政策および原子力関連体制が破綻した。 この事態を正面から受け止めれば、原子力発電を放棄し、全ての原子力発電所を即時廃止に向かわせることが、被災者・犠牲者をはじめとする全国民に対して、また国際社会や将来世代に対しての最低限の責任であり、よもやそれ以外の「選択枝」は存在し得ない。 政府が示した3つのシナリオのうち、この当然の責務に応えうるものは「原発ゼロシナリオ」のみである。政府はいたずらに時間を過ごすことなく、今月末の刻限までにはっきりと「原発ゼロシナリオ」を選択した上で、原子力発電ゼロを前提に、社会機能の維持および環境負荷の低減を両立させるためのあらゆる方策を動員する必要がある。 2. 運輸部門の省エネについて、「選択枝」では「電気自動車」など自動車単体対策ばかりが目立っているが、自動車依存を放置する限り省エネ可能性は限られて当然である。このような欺瞞的な「省エネ」ではなく、むしろ自動車への依存度を低下させ、他の交通手段への転換を進めることによる実質的な省エネを進めることでしか、実質的な「省エネ」は実現できない。 		

以上